

地域ケア会議

鹿児島市地域包括支援センター 上町

【計画】

作成担当者： 米森 貴子

開催日時	平成30年08月09日 13:00 ~ 15:00	開催場所	たてばば福祉館
参加者	民生委員：18人、居宅介護支援事業所：1人、通所介護事業所：2人、訪問介護事業所：2人、通所リハビリテーション事業所：1人、訪問リハビリテーション事業所：1人、訪問看護事業所：1人、訪問入浴事業所：1人、小規模多機能ホーム：1人、グループホーム：4人、老人保健施設：3人、特別養護老人ホーム施設：1人、地域包括支援センター職員：5人 総数 41人		
内容	テーマ	大竜地区のフォーマルサービスについて	
	目的	地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の発見	
	概要	(1) 大竜地区における各介護サービス事業所の紹介とサービス内容について (2) 大竜地区の地域住民の困りことについて(グループ討論)	

【結果】

開催日時	平成30年08月09日 13:00 ~ 15:00	開催場所	たてばば福祉館
参加者	民生委員：18人、居宅介護支援事業所：1人、通所介護事業所：2人、訪問介護事業所：2人、通所リハビリテーション事業所：1人、訪問リハビリテーション事業所：1人、訪問看護事業所：1人、訪問入浴事業所：1人、小規模多機能ホーム：1人、グループホーム：4人、老人保健施設：3人、特別養護老人ホーム施設：1人、地域包括支援センター職員：5人 総数 41人		
内容	(検討内容) ・各介護サービス事業所が、それぞれの介護サービスの内容説明と事業所説明をパンフレットやチラシ、資料を用いて発表を行った。 ・6グループに分かれて大竜地区の地域住民の困り事についてグループ討議を行った。 【困り事】 ・1人暮らし高齢者が多く、お金の問題、今後の不安、鍵が閉まっている、新聞が溜まっているなど地域の方から民生委員に相談がある。 ・店が少ない、災害非難場所が遠い、道路が狭い、一人暮らし高齢者が多い、空き家が多いなどの困り事がある。 ・地域住民は認知症について、自分になったら、身内になったらと心配を持っている。 ・認知症のある利用者で、火の始末や家族が外出している間の転倒など心配な方がいる。 ・施設のことや介護保険サービスについて、認知症状が進み、悪化してからでないと真剣に考えない家族が多い。どうい施設があるのか、サービス内容、料金のことなどの情報が事前にわかっているとよい。 【成果】 ・地域に民生委員、包括、各サービス事業所などがあるが、各々つながることで救える命もある。個人情報の問題もある為、どのようにつながりを持つべきか、慎重に行う必要あり。 ・ある地区では、老人クラブにおいて、ランドゴルフに参加している住民が、ランドゴルフに向かう途中に仲間に安否確認の声をかけている。 ・大竜民児協ではペットボトルに緊急時の連絡先やかかりつけ医がわかる紙を入れて、保管する「命のカプセル」設置に取り組んでいる。 ・認知症かどうかを調べる方法や、認知症についてのパンフレット(認知症ケアパス)などがあれば活用できると思う。 (施設や介護保険サービスの情報については、定数が過ぎて来るお盆や正月の前には、予約をキャンセルする情報も確認)		
今後の課題など	今回の会議にて大竜地区の各サービス事業所と民生委員とのつながりの場となり情報を共有することができた。地域の困り事について共有し、新たな地域の社会資源を把握するため、今後の会議に活かしていく。		